

教えから学びへ

今、教育が大きく変わろうとしています。今までは、身に付けなければならない知識をどう教えるかでした。これからは、子どもたちの学びをどう支えていくか。子どもがどん欲に学ぶようになるために学びをどうサポートするかの時代になるということです。

前は、この知識を知らないと将来困るぞというものがありませんでした。もし、教科書がなかったら、今何を教えますか。「二次方程式を求める公式」や「〇〇年は〇〇がおきた年」という知識によって、今の生活が便利になっていますか。

教育が変わってきている理由は、3つあります。

一つ目。今 VUCA（ブーカ）の時代と言われています。VUCA（ブーカ）の時代とは、先行き不透明で将来の予測が困難な時代の事を言います。以前に比べ、社会の変化が速くなりました。今学んでいる知識がこれから役に立つか分かりません。将来、何が大切になってくるか分からなくなっています。だから、今何を教えることが大切かもはっきり分からなくなっています。だから、これだけの知識を教えるという教育は成り立たなくなってきました。先生（先に生まれた人）が、これが大切だから学んでおきなさいと言えなくなってきました。

二つ目。子どもたちの前に情報が多くなりました。子ども用の図鑑や動画が多くあって、先生に聞くより調べた方が詳しく分かるようになってきました。調べ方さえ分かれば、新しい知識を得られるようになりました。だから、先生に知識を教えてもらうことに価値が見いだせなくなってきました。（もちろん、調べる方法を教えたり、調べ方やその考え方の良さを伝えたり、考える視点を与えたり、考えと考えを結び付けたり、先生の存在意味はたくさんありますが。）

三つ目。前は、科学技術が発達すれば生活が向上すると考えられていましたが、自然が壊されるなどの問題が出てきました。これからの世代は、たくさんある問題を解決することが必要となります。ですから、こうしたら解決できるのではと、実践的な知識が必要となります。

これからは、子どもが面白いと思えること、大好きなことをを見つけることを手伝うような教育に変えていく必要があります。言い換えると、子どもの自分探しを応援する教育をすることです。様々な体験をして、何か好きなことを見つけたら、それを学ぶことを助けてあげる、そんな教育をしていくことがこれからは大切になると思います。